

Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト計画書(報告書)

学校番号	29	学校名	甲府工業高校		
全・定・通	定	学年	1	在籍生徒数	12 名
<b>教育目標 (学力に関するもの)</b>	「質実剛健」を校訓とし、「技術者となる前に人間となれ」を信条に教育活動を行う。卒業後地元企業へ就職できる人間性や技術力を身に付けさせるとともに、新しい時代に必要となる資質・能力を育み、地域社会や産業界に貢献できる人材の育成を目指すために、基礎的・基本的な学力の定着を図る。(①主体的・対話的で深い学び、②自己肯定感・自己実現、③コミュニケーション力)				
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力	①課題発見力 ②論理的思考力 ③課題解決力 ④知識力 ⑤技術力 ⑥創造力 ⑦コミュニケーション力 ⑧社会人倫理力 ⑨学びに向かう力(主体性) ⑩表現力				

各教科の取組					
教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題	
国語	周囲の人間とのコミュニケーションに必要な語句や表現の知識を増やし、語彙力を高める。	4.8	5	・生徒の必要性に応じた語句や知識を精選して提示し、継続的かつ段階的に課題を設定していく。	
	自分の意見や考えを的確に相手に伝えるために、適切な語句や表現を選択することができる。	4	3.8	・意見発表会やプレゼンテーション等の課題を設定し、語句や表現を選択する機会をより多くしていく。	
	身に付けた知識・能力を活用して、主体的に周囲の人間とコミュニケーションを図ることができる。	3	2.8	・意見交換や協働作業の場を増やし、コミュニケーション必須の状況を作ることで主体的な言動を促していく。	
地公	考察・選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	4.8	4.5	考察・選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し、新聞や諸資料などから必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。	
	現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れたら構想したことを議論する力を養う。	4	4.3	現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れたら構想したことを議論する場を増やす。	
	よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、各国が相互に主権を尊重し、各国が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。	3.5	3.3	よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、各国が相互に主権を尊重し、各国が協力し合うことの大切さを理解させる。	
数学	基礎基本の概念を理解し、数学的に処理するために数式化、図式化することができる。	4.5	4.4	・基礎基本事項の定着のため反復学習を強化する ・ことばと数式、図式化の関連付けを強化する	
	論理的に考え、他の事象と関連づけ、数学的に、簡潔、明瞭、的確に表現できる。	3.8	4.4	・関連既習事項がどのような関係があるのか丁寧な説明をする ・関連問題からの規則性を推測できる力を身に付けさせる	
	問題解決の過程を粘り強く考えたり、よりよい解決方法を見つけることができる。	3.5	3.8	・思考過程や計算過程を丁寧に書かせ、行間を補足する力をつける ・できた、わかったという喜びを味わえるよう課題設定をする ・基礎概念を理解するために教材を工夫したり言語力を高めるような話し合いの場を作り指導する。	
理科	自然現象を理解する上での基礎的な知識、および科学的探究のため必要となる方法や技能を身に付けようとする。	5	5		
	観察や実験の結果を科学的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	4	3.5	実験や観察の実施後、時間をかけグループで話し合いの場をつくり探究を深めさせる。また、結果や考察などを通して発表し表現力を養うよう時間を確保し指導する。	
	興味・関心を抱いた分野について、主体的に探求し粘り強く考え深めていこうとする姿勢を持っている。	3.5	3.3	振り返りシートなど活用や基礎的なレベルからの課題研究ができるように授業内で興味を引く話題提供をして科学的に探究する姿勢に向けさせる。	
英語	まずPhonics(英語の発音のルール)でそれぞれの文字の発音のルールをマスターし、次に語と語のリンクを学び、実習リスニングも向上させる。	4.775	4.725	毎回授業の初めに行っているが、欠席や遅刻の生徒が行っていないステップについて補充する指導をより確実なものにした。	
	次にGDM(直接教授法)でア充てられたビクチャーを見て、母語である日本語を介さずに英語でその状況を説く。	3.95	4	想定し用意をしていたものでは足りない場合に、黒板にスリリングフィギュアを使い補足をするが、計画した時間配分をあまり気にせずに、指導適時と思い十分に指導していきたい。	
	流行りの表現を丸暗記的に繰り返すのではなく、難しい表現や語をBasic English用いて優しい語に変えるなどして、ソフトランディングして導入して学習意欲を喚起する。	3.375	3.3	今後もソフトランディングのための解説をさらに工夫して、効果的な生徒の理解の一助となるように研鑽を注ぎたい。	
芸術	デザインを学ぶ上で、色彩について基礎的な知識を理解している。またレタリング技術においてカラスロを使いこなせるようになる。	4.5	5	・基礎知識を土台として、目的や条件、美しさを考慮した色彩選択、デザインを進めるよう指導する。また、レタリング技術においては、さらに発展的な技能を身に付けさせるよう、課題を	
	イニシャルをアレンジして「自分のマーク」をデザインすることを通じ、他者に見てもらいたいこと、自ら伝えたいことを表現できるようになる。	3.5	3.5	・自己表現することの楽しさを、デザインを通して更に実感することのできる教材や作品制作を取り入れる。	
	デザインを自ら創り出す喜びを見出し、集中して制作に取り組む姿勢と習慣を身に付けている。	3.3	3.8	・自己を表現する新しい手段や作品を自ら模索できるよう、また常に自己表現に取り組もうとする意欲や、活気をもてるよう、指導法を工夫する。	
家庭	1年次実施しない				
保体	各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けることができる。	4.8	4.9	・種目の特性を理解し技能を習得するとともに、基本的な体の使い方や安全を身に付けさせる。また、自他の安全に留意し、仲間と協力して運動させる楽しさを体験させる。	
	運動や健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的計画的な解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝えることができる。	3.6	3.9	・教え合い、助け合い、周囲とともに活動することで、集団の一員としての自分を発見させる。	
	生涯にわたって継続して運動に親しみるとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むことができる。	3.8	3.8	・自ら進んで運動に取り組む、自己の健康状態を把握し増進することが出来る態度を身に付けさせる。 ・生涯を通して、運動が生活の一部となるような意識を醸成する	

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題	
情報	工業情報数理で代替;内容は教科(工業)に準ずる	4.8	4.8	情報に関する基本的な知識が習得できている。次年度も今年度と同様に進めていく。	
		3.3	3.2	創造的な能力を身に付けられなかったため、各種の課題解決につながる教材を探し、取り入れていく。	
		3.8	3.4	主体的な取り組みが、あまり進んでいなかったため、副教材の活用をより進めていく。	
工業	工業の各分野に関する基礎的な知識や、工業の意義を理解し、「実習」や「課題研究」における加工や作品制作をとおして現代社会で活かせる知識及び技能を理解し、身に付ける。	5	5	・工業の実施科目・時間数が少ないため基礎的な知識や工業への意義等に理解させることが難しいので、他の教科でも横断的に知識を身に付けさせたい。	
		3.3	3.3	「知」徳」体」にわたる「生きる力」を育むため、工業の各分野に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、表現する創造的な能力を身に付ける。	
		3.3	3.3	工業技術に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするともに、実践的な態度を身に付け、人間性をより一層向上させようとする。	
総探					

「授業アンケート」高評価数値の推移(96:小点数第1位まで)	R4中間	R4度末
この科目の授業を通じて知識・技術が身についた。 ①強くそう思う、②そう思う	97.8%	100.0%
授業や単元の終わりに、自分の成長や変化を振り返ることができた。 ①強くそう思う、②そう思う	96.4%	97.0%
他者の知恵や意見を吸収して、思考の枠組みを広げた。 ①強くそう思う、②そう思う	77.5%	76.8%
自分の感じた思いや考えた内容を、ノートに書いたり、質問・意見等で発表した。 ①強くそう思う、②そう思う	69.1%	65.7%
この科目に興味や魅力を感じているので、調べ学習を行った。 ①強くそう思う、②そう思う	71.9%	57.6%
授業での学びをさらに深めるために、自主的な取り組みをした。 ①強くそう思う、②そう思う	66.3%	54.5%
先生は、授業の目的を明確に示している。 ①強くそう思う、②そう思う	100.0%	100.0%
先生は、授業目標を達成するために、有効な手立てを用いている。 ①強くそう思う、②そう思う	100.0%	100.0%

保護者アンケート結果(学力に係わるもの)
授業や学校生活に関する話を家でしているかとの問いに82%の保護者が話をしていると回答した。所属する工業科3科の興味・関心に関するアンケートは73%の保護者が興味・関心を示した。また、学校生活全般において、子供からいろいろ聞いているため、学校のホームページはあまり見ないとの具体的な少数回答はあったものの、学校関係のホームページを活用している保護者が80%であった。しかし、家庭での学習に関して習慣がついているとの回答には、33%と低く、アルバイトやゲームに時間を費やしている生徒が多くなる現状が見える。

授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)
「自分の感じた思いや考えた内容を、ノートに書いたり、質問・意見等で発表した。」の項目と、「授業での学びをさらに深めるために、自主的な取り組みをした。」の項目が低く、授業内容を課題や家庭学習で、PC端末とつながらざる必要性を感じる。いかに興味・関心を持たせるかは、授業を組み立てていくために必要なことで、授業開始直後導入部分で投げかけの工夫が必要だと考えられる。



学校番号	29	学校名	甲府工業高校		
全・定・通	定	学年	3	在籍生徒数	14名
教育目標 (学力に関するもの)	「質実剛健」を校訓とし、「技術者となる前に人間となれ」を信条に教育活動を行う。卒業後地元企業へ就職できる人間性や技術力を身に付けさせるとともに、新しい時代に必要となる次の資質・能力を育み、地域社会や産業界に貢献できる人材の育成を目指すために、基礎的・基本的な学力の定着を図る。(①主体的・対話的で深い学び、②自己肯定感・自己実現、③コミュニケーション力)				
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力	①課題発見力 ②論理的思考力 ③課題解決力 ④知識力 ⑤技術力 ⑥創造力 ⑦コミュニケーション力 ⑧社会人倫理力 ⑨学びに向かう力(主体性) ⑩表現力				

各教科の取組		身に付けさせたい資質・能力				次年度への課題			
教科		中間評価	年度末評価						
国語	周囲の人間とのコミュニケーションに必要な語句や表現の知識を増やし、語彙力を高める。	4.0	4.0	生徒の必要性に応じた語句や知識を精選して提示し、継続的かつ段階的に課題を設定していく。					
	自分の意見や考えを的確に相手に伝えるために、適切な語句や表現を選択することができる。	3.8	3.5	意見発表会やプレゼンテーション等の課題を設定し、語句や表現を選択する機会をより多くしていく。					
	身に付けた知識・能力を活用して、主体的に周囲の人間とコミュニケーションを図ることができる。	2.3	2.3	意見交換や協働作業の場を増やし、コミュニケーション必須の状況を作ることで主体的な言動を促していく。					
地教	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性、防災、地域や地球の課題への取り組みなどを理解している。また、地図や地理情報システムなどを用いて、さまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	4.6	4.6	考察・選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し、新聞や諸資料などから必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。					
	地理に関わる事象の意味や意義、位置や分布、場所、人間と自然環境との関係性、空間的作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想し効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	3.6	3.6	現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れたら構想したことを議論する場を増やす。					
数学	知識・技能を獲得、思考力、判断力、表現力等を身に付けるために粘り強い取り組みを行おうとしている。また、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚などが深まっている。	2.9	2.9	よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さを理解させる。					
	基礎基本の概念を理解し、数学的に処理するために数式化、図式化することができる。	4.1	3.9	基礎基本事項の定着のため反復学習を強化することばと数式、図式化の関連付けを強化する					
	論理的に考え、他の事象と関連づけ、数学的に、簡潔、明瞭、的確に表現できる。	3.8	3.8	関連既習事項がどのような関係があるのか丁寧に説明をする 関連問題からの規則性を推測できる力を身につけさせる					
理科	問題解決の過程を粘り強く考えたり、よりよい解決方法を見つけることができる。	2.5	2.5	思考過程や計算過程を丁寧に書かせ、行間を補足する力をつける できた、わかったという喜びを味わえるよう課題設定をする					
	1・2年次で履修								
英語	1・2年次で履修								
芸術	1年次で履修								
家庭	2年次で履修								
保体	5.0	5.0	種目の特性を理解し技能を習得するとともに、基本的な体の使い方を身につけさせる。また、自他の安全に留意し、仲間と協力して運動する楽しさを体感させる。						
	1・2年次で履修	4.6	4.6	教え合い、助け合い、周囲とともに活動することで、集団の一員としての自分を発見させる。					
		3.2	2.9	自ら進んで運動に取り組み、自己の健康状態を把握し増進することが出来る態度を身につけさせる。 生涯を通して、運動が生活の一部となるような意識を醸成する					

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
情報	1年次工業情報現代代替			
工業	工業の各分野に関する基礎的な知識や、工業の意義を理解し、「実習」や「課題研究」における加工や作品制作等とおして現代社会で活かせる知識及び技能を理解し、身に付ける。	4.1	4.1	学習能力や発達段階が生徒一人ひとり大きく異なっている中で、学習に対する理解度と取り組み状況を丁寧に見取っていく必要がある。社会とのつながりのなかで知識・技能の意義を体感させるためには、要素知識の積み上げと知識の活用の両面に立った学習観が必要である。
	知「徳」体」にわたる「生きる力」を育むため、工業の各分野に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、表現する創造的な能力を身に付ける。	3.6	3.5	自ら考えて行動・表現するためには、生徒自身が何のために作品をつくるのかを明確にすることが重要である。また、対象となる課題について、複数の視点から捉える機会を設けることが必要である。作品制作課程でクラスメイトや教員とのコミュニケーションをとりながら試行錯誤できる時間的配慮が大切である。
	工業技術に関する諸課題について関心をもち、その改善・向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付け、人間性をより一層向上させようと努力する。	2.1	2.1	テスト結果や作品の完成度など、成果物のみを評価の対象とするのではなく、学習プロセスを評価対象とすることが重要である。そのためには、中間発表会や生徒同士の相互評価を行うなど、行動と内省のサイクルを単元毎に設定することも有効であるとする。
総探				

「授業アンケート」高評価数値の推移(％:小点数第1位まで)		R4中間	R4年度末
この科目の授業を通じて知識・技術が身についた。 ①強くそう思う、②そう思う		89.6%	89.2%
授業や単元の終わりに、自分の成長や変化を振り返ることができた。 ①強くそう思う、②そう思う		84.6%	84.2%
他者の知恵や意見を吸収して、思考の枠組みを広げた。 ①強くそう思う、②そう思う		79.0%	78.0%
自分の感じた思いや考えた内容を、ノートに書いたり、質問・意見等で発表した。 ①強くそう思う、②そう思う		74.0%	71.0%
この科目に興味や魅力を感じているので、調べ学習を行った。 ①強くそう思う、②そう思う		61.0%	63.0%
授業での学びをさらに深めるために、自主的な取り組みをした。 ①強くそう思う、②そう思う		62.0%	58.0%
先生は、授業の目的を明確に示している。 ①強くそう思う、②そう思う		96.0%	96.0%
先生は、授業目標を達成するために、有効な手立てを用いている。 ①強くそう思う、②そう思う		96.0%	96.0%

保護者アンケート結果(学力に係わるもの)	
授業や学校生活に関する話を家でしているかとの問いに82%の保護者が話をしていると回答した。所属する工業科3科の興味・関心に関するアンケートは73%の保護者が興味・関心を示した。また、学校生活全般において、子供からいろいろ聞いているため、学校のホームページはあまり見ないとの具体的な少数回答があったものの、学校関係のホームページを活用している保護者が80%であった。しかし、家庭での学習に関して習慣がついているとの回答には、33%と低く、アルバイトやゲームに時間を費やしている生徒が多くいる現状が見える。	

授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)	
「自分の感じた思いや考えた内容を、ノートに書いたり、質問・意見等で発表した。」の項目と、「授業での学びをさらに深めるために、自主的な取り組みをした。」の項目が低く、授業内容を課題や家庭学習で、PC端末とつなげる必要性を感じる。いかに興味・関心を持たせるかは、授業を組み立てていくために必要なことで、授業開始直後導入部分で投げかけの工夫が必要だと考えられる。	